



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2021年度 NO.2

■目次

- ・第23回大会開催に向けて
- ・理事会報告
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・学会表彰委員会報告
- ・企画研究委員会報告
- ・支部活動報告
(北海道支部、東日本支部、関西支部、九州支部)
- ・事務局からのお知らせ
- ・会員情報 (2021年11月～2022年5月)

第23回大会開催に向けて

感染予防と社会とのつながりをどのように折り合いをつけ学びを両立させていくかが現在問われています。ウィズコロナ時代の新たな学びのかたちを模索し始めてから2年が経過しました。ICTなどの代替ツールを活用してできる学びと、人とのつながりや経験から得られる学び、それぞれの特徴が浮き彫りになってきました。現場でのリアルな体験を通しての学びの代表がインターンシップ等の職業統合的学習(WIL)です。

そこで第23回大会のテーマは「学校と社会をつなぐ職業統合的学習(WIL)」と題し、社会とのつながりを探究する場にしたいと考えています。日本インターンシップ学会は、2013年に学会の英語名称がThe Japan Society of Internship and Work Integrated Learningに変更されました。この英語名称変更を機に、インターンシップをひろく職業統合的学習(WIL)のコンセプトの中に位置づけ理解していくことが期待されています。実習(資格養成課程の実習も含む)、PBL、サービスマーケティングなど、「自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験」にかかる学内外の「直接的」「間接的」な教育が研究対象となっています。職業統合的学習(WIL)の今後の可能性について、皆様と共に議論を深めていきたいと存じます。

九州支部の担当となる第23回大会は、3年ぶりに2日間で開催することになりました。開催形式は、現段階では1日目はオンラインと対面の併用で、2日目はオンライン(Zoom)のみでの開催を予定しています。ただし、感染状況によっては2日間ともオンライン開催に変更される可能性もあります。変更が生じる場合には、大会1カ月前までにご案内いたします。また、2日間で異なる開催形式をとることで、1日目は会場で2日目も会場教室で個別にオンライン参加も可能です。2日間ともオンラインのみでの参加も可能です。

<第23回大会概要>

- ・開催日程 2022年8月27日(土)・28日(日)
- ・開催担当校 久留米大学御井学舎

・開催形式:1日目はオンラインと対面の併用(※感染状況によって変更される可能性があります)。2日目はオンライン(Zoom)。

<主なスケジュール(予定)>

1日目:8月27日(土)10:00～17:30

- ・開会式
- ・会長講演「職業統合的学習(WIL)と学会のあゆみ」
- ・学会表彰委員会「高良記念研究助成報告」
- ・シンポジウム「多様な職業統合的学習(WIL)をめぐる横断的な対話からの学び」

・会員年次総会
(17:30-18:30 交流会)

2日目:8月28日(日)9:30-13:00

- ・自由研究発表
- ・閉会式

※大会の最新情報、詳細は第23回大会webサイトをご覧ください。

<https://jsi-23th.com/>

研究発表申込期間は、2022年5月16日(月)～6月13日(月)です。

「研究発表申込方法」を熟読の上、申込サイト(<https://forms.gle/7GxS8zHLP8ZAnTqDA>)からお申込みください。また、大会参加申し込み受付も5月16日(月)から開始します。2022年7月31日(日)までにお申し込みいただくと早割となりお得です。なお、参加申込・参加費支払いは、Peatix(ピーティックス)システムを利用します。申込・支払い時にはPeatixへの新規登録が必要になりますので、詳しくはサイト内の「大会のご案内」をご覧ください。

初めてのオンラインと対面を併用した2日間での大会開催となるため、ご不便やご迷惑をおかけすることが多々あるかと存じます。会員の皆様にとって新たな知の創造の場になるよう、大会実行委員会一同、精一杯準備を進めております。運営に際しては、何とぞご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

多くの会員の皆様からの研究発表とご参加をお待ち申し上げます。

(第23回大会実行委員長 江藤智佐子・久留米大学)

理事会報告

2021年度第4回理事会(2021年12月13日*Web会議)

入退会の審査ならびに会員名簿(会員リスト)の発行に係る審議を中心としたWeb会議を開催し、4つの議案を審議しました。加えて、各委員会・各支部の活動状況が報告されるとともに、第23回全国大会の準備状況についての報告、今後の理事会スケジュールと開催方法、入会審査の電子化についての提案・承認がされました。議事の概要は、次のとおりです。

(議案1) 前回理事会議事録(案)の確認

・事務局より、前回理事会議事録(案)が示され、各理事に確認の依頼がなされた。(この後、12月20日、修正なく原案のとおり議事録が確定された。)

(議案2) 入退会の審査

・事務局より、入会2件(個人会員2件)、会則に基づく会費未納3年以上のための自然退会7件(個人会員6件、法人会員1件)が提示され、審議の結果、承認された。

(議案3) 会員名簿(会員リスト)の発行について

・吉本会長より、会員の交流の観点から、必要最小限の情報を記載した名簿の発行についての提案がなされ、審議の結果、名簿発行予算は計上されていないが、2022年度内の発行を目指し、引き続き検討をおこなうことを決定した。また、会員名簿の発行前には「登録情報の確認」を行うことが承認された。

(議案4) 支部のあり方について

・平尾監事より、支部の在り方について、引き続き理事会で検討していくことの必要性が提案され、吉本会長より、支部は、①研究交流のための企画を提案するグループという位置づけであること、②現体制では支部のメンバーシップ制はとらないが、これを排除する訳ではなく、各支部の裁量にゆだねることの補足説明がなされた。これを受け、平尾監事から吉本会長の説明を広く会員に伝えていくことが重要であるとの意見が示された。また、江藤事務局次長から、学会の意図とは異なる地域設定が、SOLTIに示されていたことが判明したため、既に検索システム項目から地域項目は削除されていることが報告された。支部のあり方については、今後継続審議を行うことを確認した。

2021年度第5回理事会(2022年3月17日*Web会議)

前回理事会議事録(案)の確認と入退会の審査ならびに前回の理事会において継続審議となった「支部のあり方」と「会員名簿(会員リスト)の発行」、第23回全国大会の予算についての審議をおこないました。加えて、各委員会・各支部の活動状況と事務局の運営に係る改善の取組状況が報告されました。理事会の議事進行等については、古田副会長が担当しました。議事の概要は、次のとおりです。

(議案1) 前回理事会議事録(案)の確認

・事務局より、前回理事会議事録(案)が示され、各理事に確認の依頼がなされた。(一部表記修正後に3月21日、原案のとおり議事録が確定された。)

(議案2) 入退会の審査

・事務局より、入会2件(個人会員2件)、退会6件(個人会員5件、法人会員1件)が提示され、審議の結果、承認された。

(議案3) 支部のあり方について

・吉本会長より、支部のあり方についての基本的な考え方が改めて示され、これに係る意見交換がなされた。会員の所属の在り方や規程の見直しや整備など、引き続き議論を続けていくことの必要性が確認された。

(議案4) 会員名簿(会員リスト)の発行について

・吉本会長より、紙媒体の会員名簿(個人名と所属名が記載された会員リスト)の発行を2022年12月としたい方針が示され承認された。

(議案5) 第23回全国大会予算について

・第23回全国大会実行委員長である江藤理事より、前回に引き続き準備状況が報告された。大会収入源となる懇親会が開催されず、2日間のオンラインと対面の併用開催のための感染対策費、Zoom運営業者への委託費など、現時点で最大約10万円の赤字が見込まれることから、万一赤字が発生した場合には、大会運営費(30万円)に加え、予算補填をお願いしたい旨の提案があった。この提案を受けて、審議をおこなった結果、大会運営費不足分が発生した場合は、本部からの追加予算の支出をおこなうことが承認された。

(事務局)

年報編集委員会報告

『インターンシップ研究年報』第25号への投稿を2022年1月20日に締め切りました。第25号への投稿本数は「研究論文」が1件、「資料等」が1件、計2件でした。現在、2022年10月末の発行に向けて、研究論文の査読と、資料等の確認作業を進めています。

次に、J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)の資料種別の変更について報告します。J-STAGEとは、国立研究会開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームであり、特に近年、学術雑誌に掲載された論文の多くがJ-STAGE上で公開されるようになってきています。これまで『インターンシップ研究年報』のJ-STAGE上の資料種別は「研究報告書・技術報告書」となっていますが、2022年3月より「ジャーナル」に変更されることになりました。「ジャーナル」は、原著論文を主たる記事として、研究基盤情報としての研究成果や技術開発成果を広く流布させることを目的として刊行するものとされています(J-STAGE 掲載・公開基準より)。今後、学術団体の生命線でもある研究・実践成果の社会への公開

を、より積極的に進めて参りたいと思います。

『インターンシップ研究年報』第26号への投稿受付は、2022年の12月から2023年1月頃の期間を予定しています。日頃の実践や問題意識を、研究論文という形で第三者に公表してみませんか。多くの会員の皆さまの投稿をお待ちしています（詳細は、2022年11月頃にお知らせします）。

（年報編集委員長 古田 克利・立命館大学）

広報委員会報告

NEWS LETTER 発行について

広報委員会では、年2回（春、秋）にNEWS LETTERを発行し、会員の皆様に学会活動の情報をお届けしています。今回、これまでの郵送でお届けする方式から、メール添付（パスワード付）でお届けする方式に変更させていただきました。なお、NEWS LETTERが添付されたメールが届かない場合は、学会ウェブサイトトップページの「会員情報照会・更新」アイコンからメールアドレスの登録状況をご確認ください。また、メール受け取り拒否指定の解除等、ご確認いただきますようお願いいたします。NEWS LETTERが添付されたメールが届かない皆様には郵送対応をさせていただきます。

学会ウェブサイト・メールマガジン配信について

広報委員会では本学会に寄せられた研究会やセミナー開催案内および教員公募等、会員の皆さまにとって有益な情報を学会ウェブサイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。本学会に関連する情報ございましたら、広報委員会までメールでご連絡ください（jsi.prc@gmail.com）。なお、最終的な掲載可否は広報委員会で検討させていただきますのでご了承ください。

会員情報更新・アドレス連絡について

新年度を迎え、異動等で会員情報に変更された場合（メールアドレスや所属など）には、学会ウェブサイトトップページの「会員情報照会・更新」アイコンから各自で情報更新をお願いいたします。大切なご案内等が届かないことにもなりますので、お早目に更新ください。

（広報委員会委員長 眞鍋和博・北九州市立大学）

学会表彰委員会報告

今年度の学会表彰委員会は News Letter 2021.No.1でお知らせした3名から、さらに2名を加えた5名体制で展開することとなりました。委員は次の通りです。

委員長 小林 純（札幌国際大学短期大学部）
委員 伊藤 文男（追手門学院大学）
手嶋 慎介（愛知東邦大学）
戸崎 肇（桜美林大学）
古賀 正博（福岡中小企業経営者協会）

学会表彰委員会は「高良記念研究助成」「楨本記念賞」の募集・選考を行い、理事会・総会で会員へ報告することを目的として2020年度より発足した委員会となります。学会における研究活動を社会にアピールするために、表彰制度の整備と厳正な募集・審査は不可欠と考えております。今後とも会員の皆様のご指導やご協力を賜りますよう、お願いいたします。

2022年度（第16回）高良記念研究助成の募集について

高良記念研究助成は、インターンシップにかかる研究・実践活動の発展や普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を目的として設けられた、助成制度です。2021年度（第15回）は、宮田弘一会員（尾道市立大学）の「リモートインターンシップに対する教員の認識変容プロセスに関する質的分析—M-GTAを用いて—」が採択されております。

今年度の高良記念研究助成の募集期間や応募方法については、学会 Web サイト、また会員へのメールマガジン配信にてお知らせいたします。募集期間は6月上旬～中旬、審査は7月を予定しております。助成決定者は8月末に開催される年次総会にて発表の予定です。

多くの方からの応募・申請をお待ち申し上げております。

（学会表彰委員会委員長 小林 純・札幌国際大学短期大学部）

企画研究委員会報告

1. 今期（2021-2022 会期）委員会の構成について

以下の通り決定しましたので、お知らせ致します。（敬称略、あいうえお順、◎は委員長、○は理事もしくは役員、*はオブザーバー）

◎稲永 由紀（筑波大学）
○岩井 貴美（近畿大学）
亀野 淳（北海道大学）
田中 寧（京都産業大学）
○平尾 元彦（山口大学）
*吉本 圭一（滋慶医療科学大学、本学会会長）

2. 今期の活動について

企画研究委員会はこれまで、主として、インターンシップの実践に携わる会員に対して、学術研究・論文執筆に向けた支援を目的とした企画の実施に取り組んできました。しかし、企画研究 WG（発足当時）から既に10年以上が経過し、本委員会の活動を改めて振り返ったとき、学会が抱える課題に対してもっと多角的かつ機動的に活動できる組織にしてもよいのではないかと考え、会長ともご相談をし、今期は思い切って活動を一新することにしました。今期は「インターンシップ専門人材」の養成（仮）をテーマに、国内外の状況を把握するとともに、そ

の在り方（あるいは本学会としての関わり方）について検討することを考えています。そのため、私以外の委員については、実務者かつ学術研究者としても活躍する会員にお願いしました。活動期間は正味1年となりますが、活動内容については随時、本誌などをつかひながら会員のみなさまにも情報共有させていただきます。

（企画研究委員会委員長 稲永 由紀・筑波大学）

支部活動報告

【北海道支部】

2021年度北海道支部総会を開催しました。

2022年3月13日（土）、2021年度北海道支部総会および研究会を、オンラインにて開催いたしました。本会には11名の会員にご参加いただきました。

総会にて2020年度活動報告・決算の承認、2021年度の活動中間報告、2022年度の活動方針・予算の事前承認が行われ、いずれも承認されました。

また、2022～23年度の支部役員改選が行われ、会員の互選により支部長には2021年度に引き続き小林純会員（札幌国際大学短期大学部）が選任されました。並びに副支部長2名、運営委員7名、監事1名、顧問1名も選任されました。

2021年度第1回研究会を開催しました。

総会終了後には、引き続き研究会を開催し、2組の会員から発表・報告をいただきました。

①樋原智恵会員（北海道武蔵女子短期大学）「高学歴学生による若年無業者回避の実情と課題」

進学校を経て大学へ入学しても、大学生活や就職活動に馴染めず、若年無業者となった方へのカウンセリング結果をもとに、学生への指導方法や企業の受入方針について議論を行いました。

②椿明美会員（札幌国際大学）、和田佳子会員（札幌大谷大学）「文系大学におけるジョブ型採用に対応し得るインターンシップの模索～コロナ禍のインターンシップ調査から」

現在も総合職中心の雇用である文系大学の学生について「ジョブ型雇用・インターンシップ」への移行期である現在・コロナ禍の中で、インターンシップ派遣事例やヒアリング調査の結果から、大学正規科目としてのインターンシップの存在意義などを議論しました。

（北海道支部支部長 小林 純・札幌国際大学短期大学部）

【東日本支部】

2021年度第2回支部研究会

第2回支部研究会は、3月23日（水）にオンライン形式（zoom）で開催いたしました。当日は全国から26名の参加がありました。

第1回に引き続き、インターンシップ先進事例として第4回植本記念賞「秀逸な事例」受賞大学で

ある山形大学（山本美奈子会員）と名古屋産業大学（今永典秀会員）から事例発表をいただきました。

山形大学の山本美奈子会員からは「インストラクショナルデザインによるオンライン・インターンシップの設計と運営-産学連携による取組み-」についてご発表がありました。名古屋産業大学の今永典秀会員からは「地域企業の魅力発見インターンシップ-地域企業を複数社体験する NPO 法人 G-net によるシゴトリップの事例より-」についてご発表がありました。ファシリテーターの松坂暢浩支部長より総括として、①インターンシップ専門人材の重要性、②多様なインターンシップの在り方、③参加学生の学びを深めるため工夫の3点についてコメントがありました。

発表後の意見交換含めて盛会のうちに研究会を終えることができました。

2021年度第3回支部研究会及び支部総会について

第3回研究会は、6月12日（日）に対面とオンラインのハイブリット形式にて、企業のインターンシップ先進事例の発表（2社）および意見交換を行う予定です。併せて支部研究会終了後に支部総会を開催する予定です。今後詳細が決まり次第、会員の皆様にご案内をさせていただきます。

（東日本支部支部長 松坂 暢浩・山形大学）

【関西支部】

関西支部第16回研究会を開催

2021年12月10日（金）、キャンパスポート大阪に於いて、支部研究会を開催しました。大学コンソーシアム大阪に共催していただき、Webカメラに自動追尾機能のある最新鋭テレビ会議システムや会場の提供、そして広報などで大変お世話になりました。対面とオンラインのハイブリッド形式で実施し、15名（対面6名、オンライン9名）の参加がありました。関西地区だけでなく、インドネシアや新潟県、茨城県、東京都、静岡県からも参加があり、オンライン開催のメリットが感じられた研究会となりました。

「コロナ禍の下での実践型インターンシップの模索」をメインテーマに2つの発表がありました。1つ目は南田修司氏（NPO法人 G-net 代表理事）の「コロナ禍における地域をフィールドとした実践型インターンシップの模索～地域と若者を繋ぐグラデーションある実践機会の設計～」という報告です。短期間に複数企業のインターンシップに参加するプロジェクトや、長期の実践型インターンシップのリモート化、さらには経済的影響を受けている若者向けの有給型の実践プロジェクトなど、コロナ禍での多彩な取組みが報告されました。2つ目は、木村亮介会員（和歌山大学 キャリアセンター）の「実践型インターンシップのユニバーサル化の模索～下準備としてのPBLの活用～」という報告です。地域の特性

を活かした「わかやま未来学副専攻」の概要と、その一環で実施する実践型インターンシップの様々な事例について、具体的な取り組み内容や課題などを紹介していただきました。

それぞれの発表後には、質疑応答や交流会をハイブリッド形式で行い、盛況のうちに研究会を終えることができました。関西支部では、今後も大学コンソーシアム大阪と連携した研究会を継続していく考えです。



自動追尾型のTV会議システムを使用した研究会の様子

(関西支部支部長 安孫子 勇一・近畿大学)

【九州支部】

九州支部第27回研究会開催

「学会大会へGO」を合言葉に、2022年3月19日(土)にオンライン(Zoom)形式で第27回研究会を開催しました。テーマは『実践』を『研究』につなげるには「スタートアップ支援研究会」とし、インターンシップ研究のすそ野をひろげていくことを目的に、これまで研究発表を行ったことがない会員に、学会大会で研究発表を行ってもらおうこと、九州支部から「ルーキー」輩出することを目的としました。現在の実践、研究内容について3名の会員から報告がなされました。

今回の研究会では、新たな試みを行いました。指定討論者を予め定め、事前に発表者と内容について協議の時間を設定し、アドバイスを受け研究会に臨んでいただきました。学会での発表が初めての会員にとっては、この方式が心理的な負担軽減にもつながり、有効に機能したようでした。

嶋田文広会員(熊本学園大学)からは、「インターンシップ・PBLにおけるプログラム制度と専門人材の動静—アセスメントによる教育効果の検証と実践型教育の意義と課題—」というタイトルで、豊富なインターンシップ実践経験の中から、特に専門人材が関わる効果やその必要性について発表がなされました。指定討論者の平尾元彦会員(山口大学)からは、「専門人材」とはいかなる機能を持ちうるのかなどその定義を明確化する必要性や、多様な実践機会

を比較する研究の可能性などが示されました。

角光通子会員(宇部フロンティア大学キャリア支援センター就職課長)からは、「企業・施設側からみる大学生インターンシップの成熟の段階と負担の構造—受け入れ担当者のインタビュー調査より—」というタイトルで、インターンシップ受け入れ側の関与にいくつかのタイプがみられることや、段階を経ながら成熟していくこと等が質的調査の綿密な分析から導き出された結果について発表されました。指定討論者の吉本圭一会員(滋慶医療科学大学)からは、実習先からの利害関係者として研究に参加する際の立ち位置をどう考慮していくのか、研究上使用する言葉の定義を明確にすることなど、調査設計の際の基本的な枠組みについてのアドバイスがなされました。

濱本伸司会員((一社)フミダス 代表理事)からは、「コーディネータとしての仲介組織の実践事例」というタイトルで中間支援団体として多様な連携でのかわりによる実践型インターンシップ事例が発表されました。指定討論者の江藤智佐子会員(久留米大学)からは、多様な実践事例をどのようなテーマに絞り込んでいくか、豊富な事例と熱意を研究発表に転換する際のコメントがなされました。

参加者は20名(うち非会員6名)でした。終了後アンケートにも、「研究者を育成しようという空気を非常に感じることでできる研究会でした」「実践(事例)からの研究への方法について詳しく解説いただきました」などのコメントが寄せられました。今後も「ルーキー」会員には、支部メンバーがサポートし、8月27日・28日、久留米大学開催の「日本インターンシップ学会第23回大会」での研究発表の舞台に立っていただきたいと考えています。詳細は学会webサイトをご覧ください。

(九州支部支部長 眞鍋 和博・北九州市立大学)

事務局からのお知らせ

2022年度会費納入のお願い

2022年度（2022年7月から2023年6月）分の会費につきましては、下記口座にお振込みいただきますようよろしくお願い申し上げます。

また、2021年度会費の納入がまだの会員の皆さまにおかれましては、早めの納入をお願い致します。

（大会での研究発表申込は2021年度会費を納入済であることが条件です。）

（事務局長 山口 圭介・玉川大学）

【振込先】

・郵便口座 02750-1-108419
口座名義（「加入者名」の欄） 日本インターンシップ学会
・ゆうちょ銀行
店番：279（当座）
口座番号108419
口座名義：日本インターンシップ学会
*恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2021 No.2

発行日：2022（令和4）年5月16日

発行：日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集・印刷：日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 眞鍋 和博

事務局：日本インターンシップ学会事務局 事務局長 山口 圭介

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2 大住ビル 401

(株)ガリレオ学会業務情報化センター内

日本インターンシップ学会 会員管理事務局

TEL：03-5981-9824 FAX：03-5981-9852

e-mail: g035jsi-support@ml.gakkai.ne.jp